

研究・調査報告書

報告書番号	担当
1 3 2	独立行政法人酒類総合研究所
題名 (原題/訳)	
Binge drinking and nitric oxide metabolites in chronic liver disease. 慢性肝疾患における大量飲酒と NO 代謝産物	
執筆者	
Oekonomaki E, Notas G, Mouzas IA, Valatas V, Skordilis P, Xidakis C, Kouroumalis EA.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Alcohol Alcohol. 2004 Mar-Apr;39(2):106-9.	
キーワード	
慢性肝疾患、大量飲酒、NO 代謝産物	
要 旨	
<p>一酸化窒素 (NO) は肝硬変患者において門脈圧の調節に重要であり、内蔵の血管拡張に影響を持つことが知られている。ラットにおいて、慢性的なアルコール投与により、肝臓のクッパー細胞による NO の産生が減少することが知られているが、実際に慢性肝疾患患者での大量飲酒と NO 代謝産物産生の影響についての研究例はない。</p> <p>今回、13 人の慢性ウイルス肝炎患者、9 人の代償性ウイルス性肝硬変の患者に 80 グラムのアルコールを投与後、血清中の亜硝酸塩と硝酸塩 (Nox) レベルを調べた。コントロールとして、15 人の代償性アルコール性肝硬変患者と 7 人の健常者を用いた。それぞれの血清中の Nox レベルはアルコール消費前と、消費後の 2、12、24 時間に測定を行なった。この結果、健常者で Nox レベルの増加が 12 時間後に見られ、同様なパターンが慢性肝炎患者でも観察された。しかしながら、アルコール投与後のウイルス性とアルコール性の肝硬変患者ではこのような Nox レベルの増加は見られなかった。さらに、肝硬変患者の basal の Nox レベルは健常者に比べ、上昇していることがわかった。以上の結果より、健常者や慢性ウイルス性肝炎患者において、大量飲酒により、Nox レベルが飲酒 12 時間後に顕著に増加し、24 時間後には飲酒前のレベルまで回復することが明らかになった。肝硬変患者では健常者と比較してこのような Nox レベルの増加は認められなかったが、試験期間中を通して、コンスタントに Nox レベルが上昇していることが明らかとなった。</p>	